

中江市議が運動の
基本を提起

船橋市民の会

84年、年頭集会 開かれる



~~~~~

一月二日、久し振りに降った大雪のため、道路がぬかるみ、肌寒い悪天候を突いて、「122下総基地米軍使用反対・中曽根内閣打倒、船橋市民集会」が船橋市商工会議所において、開催されました。勤労千葉から代表十名をはじめ、下総基地米軍使用反対運動を闘う地元住民など七〇数名が参加し、熱気あふれる集会がcaちとられました。

~~~~~

軍事評論家・剣持一己氏を迎えて

集会は、午後一時半から、映画「流血の砂川闘争の記録」(一九五五年〜五六年にかけた砂川基地拡張反対闘争と、その勝利の記録)の上映で開始されました。

映画終了後、「アメリカの核戦争政策と下総基地問題」と題して、軍事評論家・剣持一己氏の講演をうけました。剣持氏はまず「今日、核戦争がいつ起つても不思議でない国際情勢である」と指摘し、「実際核戦争がおきたときに、どのように核があつかわれるか。仮に、米・ソの核戦争がおきれば三〇分〜一時間で、カタがついてしまう」という、恐るべき現実を明らかにしました。

アメリカはそのために、「生き残り戦術」としての「第二撃を許さない」ために、ICBMや原潜を置き、その意味で、日本の基地は、アメリカにとって重要であり、現在の日本の基地の性格は、ソ連の核戦略に対する、アメリカの前進基地でもあると規定し、そのために、日本の自衛隊基地がどんな性格をもっているかわしく説明されました。さらに、横須賀・横田・厚木・成田・下総・木更津を結ぶ 国道十六号線は、軍事道路であり、そこに「対潜哨戒機」を主任務として、機能する下総基地があるということ。最近この下総基地が米核空母ミッドウェー艦載機の夜間離発着訓練基地化されようとしている

が、このことは、旧式になった、P2Jに代わるP3Cの導入、また東京六本木にある防衛庁の地下に中央指導所が完成するなかで、下総基地が、核出撃基地に変わることにつながる危険性をも指摘しました。最後に剣持氏は「現在核戦争の危機が切迫している、もつともつと、危機感をもって反戦・反核・反基地のたたかいを強めなくてははいけない」と提言され、一時

間にわたる講演をむすびました。

続いて勤労千葉を代表して、発言にたった、山口副委員長は、全参加者に対して、四月、中江選挙戦の勝利の御礼をのべるとともに、「国鉄と三里塚を軸に、反動中曽根と対決する労働運動を地域住民とともに闘っていききたい。船橋市民の会運動の前進に期待している」とあいさつしました。

中江昌夫氏年頭の決意

次に、満場の拍手をあげながら、中江昌夫船橋市議が発言にたち、市民の会を代表して、「84年・年頭の決意」をのべました。中江市議は、「市民の会を結成して一年、勤労千葉など労働組合の力を得て、小さいながらも筋を通した運動で、船橋に根をはりつつある。私はこうした大衆運動を基盤に議会において、船橋市の反核・平和都市宣言、下総基地、公害問題等など、積極的に、市側を追及してきた」と報告し、さらに、「市民の会の84年の課題」として、「50万都市となった船橋をふたたび、軍都にはさせないために、反戦・反核・護憲をつらぬき、とりわけ、下総基地問題を徹底的に闘う。さらに全国住民運動の啓、三里塚を守り、二月芝山選Ⅱ鈴木幸司候補の必勝にむけ積極的に行動する。これらの運動を通して労働運動と住民運動の輪をさらに大きく広げ、3・25三里塚に総決起していこう」と決意を明らかにしました。

根づいた草の根運動のさらなる発展を

満場の拍手で中江代表の提起が確認され、最後に、市民の会事務局よりアップビルがなされました。アップビルの内容は主要次のとおりです。「三里塚反対同盟や勤労千葉の18年間にも及ぶ、不屈の闘いに学び、連帯して、とりわけ『五市二町連絡協』に結集する住民と共に、中江を先頭として、下総基地米軍使用に反対していく。同時に反核一万人署名運動や、三里塚の無農薬野菜産直販売運動等を通じて船橋に根づいた草の根運動を大きく育てていきたい。三里塚二期着工を許さず、中曽根を打倒するたたかいを創っていく」ことが確認されました。その後、市民の方より、数人の発言をうけ、集会は成功裡に終了しました。